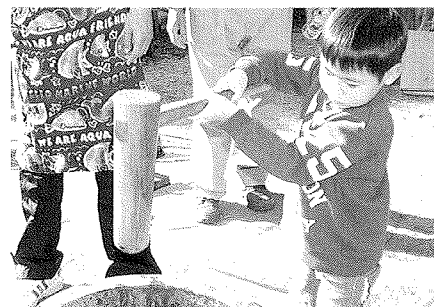
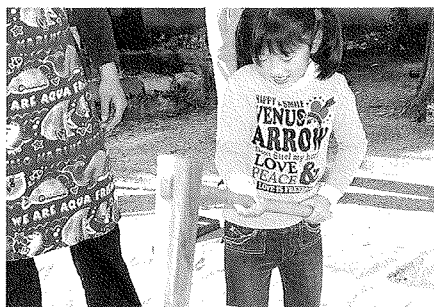


少連協ニュース

発行所 / 足立区少年団体連合協議会
www.a-shorenkyo.jp

発行人 野辺 陽子
編集 調査広報部
市川 今井 小野田 鈴木 高澤
高橋(利) 高橋(祐) 田中
辻村 手塚 堀内 山本



笑顔いっぱいの 子どもたち



この震災ではさまざまなことに心を打たれ、日常の尊さを改めて考えさせられることになった。その非日常の中で、とりわけ避難所での子ども達の活躍ぶりに大きく心を動かされた。

誰が言い出すともなく、多くの大人の中でしつかりとリーダーシップを発揮し、不安を少しでも軽減してもらうために進んで行動をおこしていた。避難してきている人びとの、今知りたい情報をインターネットを駆使し、Q&A形式での掲示板の運営をしていた中高生。避難所と化した体育館に「ガンバロー高田、生命あることを喜ぼう」のメッセージを壁に貼り出し、多くの人びとを勇気づけていた家族の安否もわからないという中学生達。小さな子どもに至っては「肩もみ隊」と称し、お年寄りにマッサージをして回っていた。その小さな手から伝わるぬくもりにも、目を細め複雑な思いをかみしめている表情が画面を通してみる私達の心をも温めた。

非日常の中で、他者を思いやるというやさしさ、生きる力がしつかりと育まれていた子ども達。

これから始まるジュニアリーダー研修会「ワクワク遊び塾」の目指すところが、まさにここであると確信した。

このたびの東日本大震災で亡くなられた方がたに深く哀悼の意を表し、被災された皆様に心より、お見舞い申し上げます。

大震災を通して見る
ジュニアリーダー研修会の目指すもの
足立区
少年団体連合協議会会長 野辺 陽子

絆に思いをよせて

少連協新年会

平成二十三年一月十四日、中央庁舎十四階レストランピガールに於いて、約百名の参加のもと少連協新年会が開催されました。

岩澤明美副会長の司会のもと、加藤俊次副会長の開会の辞ではじまりました。

少連協行事では、恒例になった区歌斉唱の歌声も明るくのびやかさがあふれていました。

野辺陽子少連協会長からは「昨年よりタイガーマスクと名乗る人から、福祉施設にランドセルが届くという心温まるニュースが国中にあふれているが、皆さんが行



▲野辺陽子会長

っている子ども達へのボランティア活動は、タイガーマスク以上のものとありがたく思っている。来年度は、入学式での子ども会勧誘のリーフレット配布の準備も整い、子ども会への関心を高めよう」という来年度の抱負も発表されました。また近藤やよい区長からは「予算編成の最終局面に際し、健全育



▲近藤やよい区長

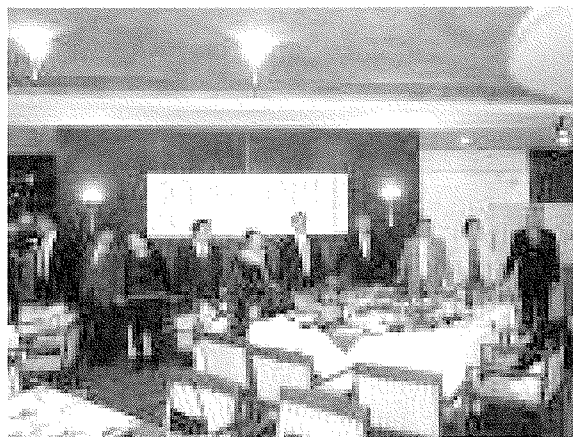
成のためにできるだけのことをしたい」と抱負を寄せられ、中学生が、消防団などの組織のなかで、自己存在感、自己肯定感を持てたなどという話から、子ども達のために「地域力の再生、親と子の絆」など人間関係の再構築を課題とする方針のお話をいただきました。

齋藤幸枝教育長の絆を結びなおすきっかけに、子ども会活動の更

なる期待がよせられた乾杯の音頭で和やかに寿ことほぎの会がはじまりました。第二部では、昨年に引続き総務部による、ハンドベルの演奏がありました。今回は、野辺会長も演奏に加わり「さくらさくら、むすんでひらいて、春がきた」の三曲を発表していただきました。

その後恒例の大ビンゴゲーム大会、各地少連協代表のカラオケ大会と賑やかに進行されました。

糸偏の半分と書いて絆と読みます。糸の繕り目が固いか、ゆるいか、程々か、その繕り目が肝心な絆を紡いでいく私たち少連協役員のパワーを充電した新年会でした。



▲盛り上がった新年会

常任理事懇親会

子ども会加入促進のリーフレット作成、そして配布へ

平成二十二年十二月七日(火)

午後七時より、北千住、東武菜苑に於いて恒例の常任理事懇親会が開催されました。

師走の声を聞き気忙しい最中にはありましたが、二十五名の参加を得ることができました。和やかに進行しましたが、本日の主題「子ども会加入促進リーフレットの作成について」ということで雰囲気も少し真剣モードに切り替りました。

この事案につきましては、野辺会長より予て、役員会で提案されてこられました。ここにきて具体的に組みむこととなりました。十一月の役員会にて、まとめ役として加藤副会長が指名され、原案作りを任せられました。

その際の話し合いで決まった内容は次のとおりです。

①子ども会への加入者が減少する中で、加入者を増やすべく少連協が中心になって、小学校の新入生を対象に加入促進のためのリーフレットを作成し配布する。

そのためには、少連協・地少協、

行政で連携しながら、内容を検討していく必要がある。

②リーフレットの形態としてはA4サイズのカラー用紙を二つ折りにしたもので、行政や青少年委員会の協賛を得た形で発行したい。

③人によつては、どこの子ども会に所属したらよいのかわからない場合もあるので、各地域で担当の地少協または子ども会の連絡先を書いたチラシを作成し、リーフレットにはさみ、問い合わせがあった時にはスムーズに案内できるようにする。

以上のことをふまえて、本日の話し合いの方向性として、

①子どもと保護者に「子ども会とは何か」を理解してもらい、関心をもってもらうために盛り込むべき内容を話し合う。

②子ども会や地少協で、子ども会加入促進のチラシを配布しているところがあれば、参考に意見や内容を聞く。

参考資料

第五地少協、鹿浜地少協、新田地少協、舎人日の出子ども会、入

谷四ツ葉子供会(舎人地少協)の会加入チラシも配布されました。その後、グループごとの話し合いに入りました。

子どもたちに入会ポスターを書かせて町内の掲示板やスーパーにお願いして貼っている地域もあるそうです。

話し合いのまとめ

・表紙の図柄は親しみやすくし、あまり文字は入れない。タイトルは「子ども会へ入りましょう!」全体にすっきりとした感じが良い。

・見開きの左ページは、子ども会の行事や子ども会の楽しさをPRする。

・右ページは体験など入れると更に親しみやすくなるのではないかと子どもだけではなく保護者の体験談も入れ、イラストも入れる。

・裏表紙は少連協、地少協の説明、行政からのひと言、協賛団体一覧、メールアドレスも入れると良い。

・紙の質、色等細かい点は、担当の加藤副会長と野辺会長とで話し合っていたき決定し、後日、役員会、常任理事会にて説明していただくこととする。

そしていよいよ配布へ

三月二十二日(火)、二十三日

(水)の両日、各地少協へ配布されました。学校別に分けられ、それぞれに子ども会のチラシを差し込み四月六日(水)の入学式終了後、新入学児童の保護者の手許に配布されたことと思います。

その配布の際には地少協会長、子ども会育成会長が説明をした地域、校長先生にお願いした地域等、多少の違いはあると思いますが、目的は達成されたのではないでしょう。



親は町会、自治会へ入会、子どもは子ども会へ、何年後かには親は役員を引き受けます。そういうことが永々と引き継がれてきていたのではないのでしょうか。

子どもには縦横のつながりがあり、地域の大人たちに見守られて成長してきました。しかしこれらは経済成長とともに薄れ、「群」よりも「個」、子どもたちも家庭の中だけで育てられ、社会の基礎を学ばずに成長してしまいます。ぜひこの機会に地域子ども会活動へ参加する一歩を踏み出してみてください。

子どもたちの健全な成長をみんなで見守っていきましょう。

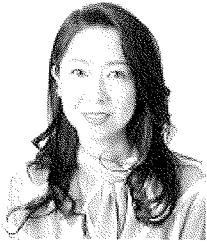
第四十四回全国子ども会育成中央会議・研究大会

思いをかたちに母の愛

福井県福井市において第四十四回（平成二十二年度）全国子ども会育成中央会議・研究大会が平成二十三年二月十一日（金）～十三日（日）の三日間、三会場において開催された。初日は開会式・表彰式・アトラクション・記念講演が行われた。

会場は瀟洒でスケールの大きな建造物「ハーモニーホールふくい」へと招かれた。講演者、辻井いつ子氏（ピアニスト辻井伸行氏の母）は「明るく、楽しく、あきらめない子どもの可能性を信じて」をテーマに講演し、子どもを信じる愛の深さ・絆の強さに聴衆は引き込まれた。

誕生して間もないわが子に、全盲というハンデを宣告された母親の苦悩は、筆舌に尽くしがた



▲辻井いつ子講師

い。

NHKで放送された第十三回ヴァン・クライバーン国際ピアノコンクールにおいて辻井伸行氏が日本人初の優勝という快挙は、テレビを見た全ての人に、感動と勇気を与え、映像は永く記憶に留まるに違いない。

ピアニストとして大成へ導く母。生後八カ月で音楽の才能を見出した。人の力と人の機縁に無限の愛を見出し、太陽のようにわが子と向き合う母の愛はまさに偉大の一語である。常に子どもを信じ、よく見て褒め「親ばか子育て」に徹してきたと言いきれる、啜啄同時の子育てを二人三脚で歩んできたのである。自信に満ちていた。

全国子ども会育成中央会議に相応しい記念講演会であった。足立区でも辻井いつ子氏の講演機会が実現できたと思う。

ホスピタリティー「心からのおもてなし」開催スタッフから福井のこころを伝えていただいた。感謝を申し上げます。

（調査広報部取材）

第三分科会

子ども会活動の包括的運営 子どもの手による運営を求めて

全国子ども会育成中央会議の第三分科会は、成徳大学教授で、全国子ども会全国連合会専門委員の神谷明宏先生より講演があった。

その後、八名のグループに分かれ、十分位の間に講演を参考にし、自分が子ども会活動で必要と思うことを、各々十枚メモ用紙に書き出した。そのメモを皆で話し合い、指導者の役割、技能、活動内容、学校地域の事業等に分類し、模造紙に張り付けた。

私のグループは、栃木、岐阜、三重、福岡、鹿児島、石川、足立の方々で、地域が広範囲にまたがっているため、活動内容も異なっていた。しかし、参加されている方々は役員全員で子どもを育てようという事で活動しているとか、学校と同じことをしていたら子ども会は育たないとか、おもしろいことをモットーにしていると、子ども会活動はボランティア

ではない等、熱弁をふるっていた。

ただ悩みはどこも同じで、役員のなり手が少ない、参加する子どもが少ないことでは同じであった。初めての講習内容で、とても楽しく有意義な経験であった。

第五分科会

ジュニアリーダーの育成について

第四十四回、全国子ども会育成中央会議・研究大会は、全国から千名の参加があり、九分科会に分かれ活発な討議がなされた。

第五分科会では、ジュニアリーダーの育成についてグループ討議が行われたが、さまざまな地域での活動の違いに驚いた。

参加者は子ども会の指導者や行政の担当者、またジュニアリーダーを卒業して社会人となった人等多彩であった。行政が主体の子ども会では小学校単位で子ども会を作り、全員が会員となる市もあった。

各自さまざまな工夫をした行事が大変参考になったが、ジュニアリーダーの目標としてのジュニアリーダーの活躍の場の必要性を感じた分科会であった。

地少協活動報告
夢の響演

第二地少協 大木通子

平成二十二年も押し詰まった十二月十二日、第一中学校体育館において同校吹奏楽部とジロー吉田とブルーハーバージャズオーケストラによるコラボレーションコンサートが第一地少協主催で行われました。

ブルーハーバーは飲み屋の親父さんから運送屋さん、公務員等の多彩な職業の皆さんが集まり「下駄履きでジャズを」を合い言葉に下町の社会人フルバンドとして活躍しています。

一中生とブルーハーバーが一緒に演奏したイン・ザ・ムードは、当日初めて音合わせをしたとは思えないほど息もぴったり。グレンミラーの名曲からエバンゲリオンテーマまで若いも若きも楽しめる選曲に、当日お越しいただいた野辺会長も会場の皆さんと一緒に手拍子で共に生のジャズを満喫していただきました。

地少協活動報告
今年の後半の行事

第三地少協 中林昭一

平成二十二年十一月二十三日



▲歩け歩け大会、全員ゴール！

(火)、第十回歩け歩け大会を行いました。参加者は十九名と少なかつたのですが、小雨模様の中、都市農業公園に向かって荒川河川敷を出発しました。途中で雨が強く降ったりしてきて、大変な中、子ども達は元気にゴールをめざしてがんばって全員が完走しました。

平成二十三年二月十一日(金)、第五十六回アイスクレーターの会を行いました。江戸川スポーツランドに集合した参加者は、昨年を上回る一二七名で、楽しくアイスクレーターを楽しんだことと思えます。来年度も参加者が楽しめる行事を企画していきたいと思えます。

地少協活動報告
防災訓練お泊り会

江南地少協 今井喜代

江南地少協主催「防災訓練お泊り会」は、平成二十三年度で十七

回を迎えます。

防災学習の内容は、起震車体験・仮設入浴・救助袋体験、地元消防団による「ポンプ操法」の見学・消火器使用体験・煙幕体験・バケツリレー体験などの協力、また地元消防署にも協力を得て、間近でポンプ車・はしご車の見学体験もさせてもらい、子どもたちが楽しみながら体験できるようにしています。

避難所体験の体育館でのお泊りは、子どもたちのもうひとつの楽しみで、防災学習の合間には、地元のジュニアリーダーが考えた防災クイズをしたり、レクリエーションゲームをして避難生活中の工夫もしています。

東日本大震災があり、日々の備えや知識が大切だと痛感しました。今年度は、実体験したことを忘れない内容にできるようにしていきたいと考えています。

地少協活動報告
スキルアップ研修生

保塚地少協 辻村宣明

今年度より青井、栗島、第十一、花畑、保塚の五地少協が連携して「リーダースキルアップ研修会」をスタートしました。



▲スキルアップ研修会

よりレベルの高い講習を受けることのできる学びの場を提供して、地域の活動の核となって活躍できる子どもを育成したいという青井地少協の清水会長の呼びかけに、近隣の四地少協が協力して実現した合同事業です。

昨年九月からこの三月まで全七回の講習会を開きました。体や知恵を使ったいろいろなゲームを体験し、時には手巻きぎしを作ったり、食べたり、本格的な竹トンボを作ったりと、様々なことに挑戦を重ねた子ども達、この記事が読まれている頃にはもう修了式を終えて立派に巣立っていることでしょう。この研修会で得たことを活かして、多くの仲間とともに、さらに大きく羽ばたいていくことを願っています。

みんなで行くこう サイクリング

新田地少協 大庫悦子

平成二十二年十月二十四日(日)、晴天に恵まれ、サイクリング、バーベキュー大会が開催されました。今回で三回を数えるサイクリング大会は、今年も百人以上の参加者で大変盛り上がりしました。新田地域は、荒川と隅田川に挟まれている島国のような所です。足立区の西の端にあり、北区と隣接している、足立区の中では比較的都心に近いのに、たくさんの方が残されています。日頃、子ども会では荒川の河川敷を利用してたくさんの行事を行っています。サイクリングは往復三十キロの行程を自転車で踏破します。戸田市にある道満グリーンパークまでの行程は、かなりハードでしたが、過去二回とも一人の脱落者もなく行われました。子ども会の行事には、何時でも地域の皆様の温かい助成があります。伴走して下さる大工さんのトラック、先行して場所取りをして下さる町会役員さん

のパン、パンク修理のために参加して下さった交通安全協会の方々などです。

新田の子ども達は本当に恵まれています。皆様に感謝いたします。

子ども研修会

(梨狩り・水族館)

中川地少協 小久保隆

平成二十二年九月五日(日)

「がんばる地少協」対象事業である子ども研修会を実施しました。

今年度は、開催時期をずらし、自転車を利用して集団行動を目的としたバーベキューを行う予定だったのですが、事前の参加募集時に二〇〇人を超えてしまったため、予定していた水元公園を確保することができませんでした。さらに本来の子ども研修会に、子どもの数よりもはるかに多い大人の数となってしまう結果、少連協の許可をいただいて予定を変更、バスを利用した梨狩りと、大洗水族館での研修となりました。参加人数も子ども、大人合わせて七十五名、バス二台での移動となりました。中川地少協としては

初めての梨狩り・水族館見学でした。昨年はまだ猛暑が続いている時期でしたので、千代田村観光梨園でもいだ梨をその場で自分で皮をむき食べる楽しさ、瑞々しさ、そして水族館では、大洗海岸にすぐ出られたので、見学もそこそこに波打ち際で遊んでいる子ども達も多く、見張り役の大人も大変だったかも知れませんが、参加者全員が楽しんで実施することができました。

また、次年度も楽しい事業を企画し、子ども達が楽しめる事業にしたいと思っています。

親子のわくわく

探訪ツアー

涿江地少協 山本輝夫

国立科学博物館「親子のわくわく探訪ツアー」が企画・承認され、実施できたことに感謝の思いです。

夏休みを前に、猛暑を感じさせる朝、平成二十二年七月十七日(土) 九時、晴天のもと元気な子ども達が竹の塚駅ロータリーに四十七名が集合しました。



▲親子のわくわく探訪ツアー

スタッフは十二名、計五十九名のツアーです。公共電車を利用し、団体行動と社会規範を学ぶ場になります。

異年齢の交流と班行動は地域の子ども達が顔馴染みの輪を広げ、安心安全な地域を創ることにあります。

今回の企画がファミリーの交流と地域の絆が一層深まることを望むとともに、上野公園にある国立科学博物館を身近に利用して欲しいと思います。

「人類と自然の共存を目指して」をテーマに見学し、日頃の生活を親子で考える機会になることを期待しながら十六時、竹の塚駅で無事解散となりました。

(国立科学博物館の常設館は子ども・小中高生は入館無料ですのでお薦めします)

新しい風を ふきこんで

第五地少協 堀切弥生

第四十三回秋期大運動会が平成二十二年十一月六日(日)区立西新井中学校校庭で開催されました。今、各エリアで課題となっている次世代地域育成者の養成は我が地少協でも頭を悩ませています。

毎年の行事の踏襲は、地少協のマンネリ化、役員と子ども会の間隔を広げてしまいます。

地少協役員の自己満足に終わらぬよう、今年度、実行委員会形式を導入しました。各行事に実行委員という縦割りの組織を設け、子ども会の役員にも実行委員として企画、運営に参入していただきました。子ども会の声を聞き、今年度から「追いかけて玉入れ」を取入れました。従来の玉入れよりも子ども達は笑顔が多く、籠を背追って逃げるお父さん、中学生が小学一、二年生に合わせる姿は微笑ましく

がんばる地少協

思いました。

また中学生ボランティアは人数を制限し、充実感を持ってもらえらることに重きを置き、子ども会、地少協のパイプ役を担ってもらいました。

意識をもって行事に参加することで、一味違った充実感が得られた運動会であったと思います。

飯ごう炊さん 体験学習

第十一地少協 大林英夫

リーダー研修会終了後、目を輝かせた児童十五名が一斉に校庭に集合しました。

本来の野外研修の基本である焚き火でご飯を炊く体験学習の始まりです。

軍手をし、慣れない手つきで、役員の方々が小割りにした薪、新聞紙、マッチを手にとっての火起こし作業や計量カップで飯ごうにお米を入れて、とぐ作業など、なかなか思うように行かず、役員の手を借りる子どもたちもいました。やがて、飯ごうの蓋より上がる湯気を嗅ぎながら、美味しそうな

匂いがすると大声を上げていました。

初めての体験にしては、ご飯がうまく炊けて、保護者の皆さんが作ってくれたカレーをたっぷりかけて、お代わりの連呼でした。

スイッチを押すだけで炊けるジャーでは体験できない、焚き火の煙が目にしみることに、ご飯のふきこぼれで炊け具合を判断すること、全てを自分で判断することなど、このような機会をたくさん作ってあげるのが大人の力ではないでしょうか。

この事業にお手伝いしていただいた先生、保護者、役員の皆様、大変お世話になりました。



▶飯ごう炊さん体験

冬の行事 第十回 子どもワールド

第十四地少協 泉 和代

平成二十三年一月二十二日、この時期にしては気温も高く、穏やかなお天気に恵まれ、西伊興小学校体育館、校庭をおかりして、百人余の子ども達の参加による「子どもワールド」が行われました。

平成二十二年十二月十二日に企画会議を開きましたが、子ども達とは、実行委員長、副委員長、書記と、積極的に立候補して、会議もスムーズに進行されました。たくさんの方が出された中から、多数決で決まったゲームは、体育館での「あだっちボール」、校庭では「ドロケイ」「王様陣屋」と、三つのゲームを行いました。子ども達は出席の順に色別のシールを胸に貼り、色ごとにチームになります。一年生から六年生、知らないお友達と同じチームになりますが、すぐに仲間となり、額にうっすらと汗をにじませ、校庭や体育館を走り回りましたが、半日だけの短い時間でしたが、充実した日でした。

第三回足立区ドッチビー大会

二月十一日(祝) 第三回足立区ドッチビー大会が梅島体育館にて足立区少連協の主催で開催されました。

朝から大雪の予報があり心配されましたが、選手約二四〇名、役

員・父母八十名と大勢の人々で体育館がにぎわいました。

今回から公式ルールに則り、十三名でチーム構成を行いました。各子ども会で選手を集め練習し、小・中学生混合チーム、高学年中心のチーム等多彩なチーム作りが見られました。

少連協日帰り研修旅行

十二月二日、好天に恵まれた中、四十一名の参加による日帰り研修旅行(横浜)が行われました。

東京電力電気資料館では、案内の方の説明を聞きながら、水力発電からエコ発電への推移の



▲日帰り研修旅行(麒麟横浜ビアビレッジにて)

見学をし、発電所で実際に使用したランナー(羽根車)やタービン、実物大の送電線や変圧線等を見てまわり、画像とは違う実体感を味わいました。

エンジンや他の展示コーナーもありましたが、限られた時間内に全部を見学できず少々残念でした。

次は麒麟ビール工場で見学と飲み物試飲、レストランでバーベキュー昼食、存分に食べて飲んで満足し、中華街で買物しました。

皆さんとお話に興じながら、夕方早めの帰宅で疲れも少なく楽しい一日を過ごしました。来年も大勢の方の参加をお待ちしております。

総務部 大山千恵子

参加十五チームを三ブロックに分け、各ブロックの優勝チームで優勝決定戦を行い、第五地少協・本町二丁目子ども会が優勝トロフィーを獲得しました。

審判は足立区体育指導委員会の協力によりスムーズに六十三試合を行うことができました。

試合後の講評は日本ドッチビー協会の横山ダイレクターよりいただき「年々子どもたちの技術が高まり、スパーキヤッチプレー等白熱したゲームになり、おもしろさも増して来たので、ぜひ学校や地域で練習してください」とのことでした。



▲優勝した第5地少協・本町2丁目子ども会

集団廃品回収

作業補助用具の貸与(無料)

子ども会にとって大きな収入源になっている廃品回収事業、ご存知のことと思いますが、足立区ではそれらの団体に作業補助用具の貸出しを行っています。

・運搬台車 一台まで
・空き缶プレス機 二台まで
・折りたたみコンテナ十枚まで
・雨よけシート 十枚まで

・標識旗 十枚まで
貸出し、その他問い合わせは、計画課清掃計画係まで。

足立区環境部計画課清掃計画係

TEL 3880-5862
FAX 3880-5604

編集後記

糸偏に半分と書いて「絆」、人と人との断つことのできないつながり。離れがたい結びつき」と広辞苑に出ています。

人間社会の基本中の基本ではないでしょうか。近藤区長のごあいさつを聞くたびに出来ることはなので改めて調べてみました。

ひとつの漢字にもこんなに深い意味のあることに考えさせられるこの頃です。